

式 辞

本日ここに、戦没者ご遺族をはじめ ご来賓各位のご参列のもと、安芸太田町戦没者追悼・平和祈念式典を執り行うにあたり、戦争により犠牲になられたすべての御霊に対し、安芸太田町を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

また肉親を亡くされ、深い悲しみを抱えながら戦後の苦難に耐え、家族を支えてこられたご遺族の皆様方のご努力に対し、心から敬意を表します。

先の大戦が終結して80年が経ちました。

この80年という歳月は、被ばくによって、75年間草木も生えないと言われた広島の地を見事に復興させました。この間、私たちが享受してきた平和と繁栄は、戦争によって命を奪われた方々の尊い犠牲と、戦後の国民のたゆまぬ努力の上に築かれたものであることを心に刻む一方で、この80年という歳月は、戦争の惨禍を教訓として、風化させることなく後世に語り継ぎ、平和の尊さを伝えていただいた諸先輩方から、直接話しを伺う機会を奪いつつあります。

だからでしょうか、世界では今もどこかで戦争が起きています。

災害は忘れたころにやってくるという言葉がありますが、人為である戦争の惨禍こそ、悲劇が風化され、人々が傷みを忘れたころに襲ってきます。戦争を直接止める事は為政者の責任ですが、我々町民が為すべきは、戦争の悲惨さを忘れない事であり、被爆の実相や戦争の惨禍を「世界に伝え続けていく事」、そして「未来に語り継ぐ事」です。

この点、平和資料館への来場者が令和6年度で226万人を超え、過去最多であったこと、また被爆の実相を伝え続けてこられた日本被団協が令和6年度にノーベル平和賞を受賞されたことは朗報でした。

本町も、ここ最近、被爆の実相や戦争の悲惨さを「未来にどう語り継ぐ」のか、をテーマに取り組みを進めてきましたが、戦後80年の節目である今年は、式典終了後、加計小学校の平和学習の取り組みと、8月6日に加計中学校が参加した「第1回全国こども平和サミット」の様子をご覧いただくとともに、町内の若者で被ばく体験伝承者がおられますので、その取り組みを紹介させていただきます。

本町の取り組みは小さな一歩かもしれませんが、諦めず、取り組み続ける事で被ばく地ヒロシマに隣接する町としての役割を引き続き担うとともに、すべての町民が安心し、心豊かな生活を送ることのできる住みよい町を目指し、真の平和の実現に向けて、皆様とともにより一層の努力をしてまいります。

結びに、戦没者すべての御霊の安らかなご冥福と、世界の平和と繁栄を願い、併せて本日ここにご参列いただきました皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げまして、式辞といたします。

令和7年8月15日

安芸太田町長 橋本 博明